《博士後期課程》

Ⅲ－ⅲ　作業療法学分野

生活行為作業療法学特論 ・・・・・・・・・・・・・159

発達過程作業療法学特論 ・・・・・・・・・・・・・160

作業療法学特別研究Ⅰ ・・・・・・・・・・・・・・161

作業療法学特別研究Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・162

作業療法学特別研究Ⅲ ・・・・・・・・・・・・・・163

授業科目名 （科目区分）	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
生活行為作業療法学特論 （専門科目）	教　授・藤井　浩美 教　授・佐藤　寿晃 教　授・菊池　昭夫 准教授・千葉　　登 准教授・外川　　佑 准教授・仁藤　充洋	博士後期課程 １年	後期	２	３０	選択	否

授業概要	ＡＤＬ、ＩＡＤＬ、仕事や趣味、余暇活動などの生活行為に関わる障がいについて作業活動学、高次脳機能障がい、内部障がい、運動器障がい、老年期障がいの各視点から概説する。また最近の生活行為障がいをめぐる話題を取り上げ、その批判的吟味を通して課題を検証し、解説を行うとともに、生活行為障がいを予防し、あるいはその維持・強化を図るために必要な基礎知識、評価手法、実践方法、研究方法について、作業療法学の視点から教授する。講義で学んだ各理論や方策を教員と学生で討議し、生活行為に関わる法則性を見出し、一般化、体系化を試みる。
一般目標	1. 個体、作業課題、環境の三側面から生活行為を分析する方法を知り、作業療法の実効性を検証するための方策を理解する。 2. 高次脳機能障がい、運動器障がい、老年期障がいの各視点から、評価手法、実践手法、研究方法を知り、生活行為障がいの機序や介入法の実効性を検証するための方策を考察する。
到達目標	講義で学んだ各分野における生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を関係づけることができ、生活障がいを予防あるいは維持・強化をするための研究開発の方策を具体的に述べることができる。
成績評価方針 評価方法 および基準	目標達成度（40%）、受講態度（30%）、討議への寄与（30%）をレポートで評価する。
授業形式	対面または遠隔講義

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 2	毎　週 月 曜 日 6-7 限目	個体、作業課題、環境と生活行為障がい	講義と討議	討議に関する 資料作成準備	藤井
3 4		高次脳機能障がいと生活行為障がい	講義と討議		菊池
5 6		運動器障がいと生活行為障がい	講義と討議		佐藤 仁藤
7 8		高齢期と生活行為障がい	講義と討議		外川
9 10		身体障がいと生活行為障かい	講義と討議		千葉
11 23 13 14 15		生活行為障がいの研究と応用	討議		全教員

教科書 参考図書	随時紹介する。
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。
学生へのメッセージ	主体的に物事を考え、積極的に討議へ参加してください。
e-mail・研究室 （連絡先）	藤井：研究室 27　hfujii@yachts.ac.jp　　佐藤：研究室 37　tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38　akikuchi@yachts.ac.jp　　千葉：研究室 22　nchiba@yachts.ac.jp 外川: 研究室 28　tsotokawa@yachts.ac.jp　　仁藤：研究室 26　mnito@yachts.ac.jp

授業科目名 （科目区分）	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
発達過程作業療法学特論 （専門科目）	名誉教授・佐竹　真次 非常勤講師・境　　信哉	博士後期課程 １年	後期	２	３０	選択	否

授業概要	発達過程作業療法学に関する科学的研究を展開するための研究課題発見と研究計画作成、および研究技術・方法の活用について学ぶ。また、発達過程作業療法学における生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を人間発達学、家族関係論、小児科学を基盤におき、作業療法学の視点から教授する。学校教育を含む地域連携、在宅医療の観点からの支援方略を教員と学生で討議する。
一般目標	1. 発達過程作業療法学の発展につながる研究課題、研究計画、および研究技術・方法を理解し、それらについて新たなアイディアを考え出す発想力を身につける。 2. 発達過程作業療法学における生活障がいの評価手法、実践手法、研究方法を理解し、作業療法の実効性を検証するための支援方略を考察する。
到達目標	1. 行動分析学、コンピュータ・タスク・デバイス、視線追尾デバイス、自律神経指標等を活用した研究課題設定と研究計画作成について説明することができ、新たなアイディアも述べることができる。 2. 発達過程作業療法学における生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を理解し、学校教育を含む地域連携、在宅医療の観点から支援方略を具体的に述べることができる。
成績評価方針 評価方法 および基準	目標達成度（40%）、受講態度（30%）、討議への寄与（30%）をレポートで評価する。
授業形式	対面授業（一部を遠隔授業とする場合があります）

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1～2	**集中講義 （後日連絡）**	行動分析学的な研究課題設定と研究計画作成	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹・境
3～4		コンピュータによるタスク・デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
5～6		視線追尾デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
7～8		自律神経指標を用いた研究課題設定と研究計画作成	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
9～10		発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅰ （ASD, LD, ADHD など）	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	境
11～12		発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅱ （脳性麻痺、重症心身障がい児など）	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	境
13～14		発達過程作業療法における学校支援・家族支援の在り方	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹・境
15		発達過程作業療法における在宅支援・連携・ネットワークの在り方	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹・境

教科書 参考図書	随時紹介する。
履修上の注意	実施日程は、受講者と協議して決定する。
学生へのメッセージ	主体的に物事を考え、積極的に討議へ参加してください。
e-mail・研究室 （連絡先）	佐竹　真次：g.ssatake@yachts.ac.jp

授業科目名 （科目区分）	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
作業療法学特別研究Ⅰ （専門科目）	教　　授・藤井 浩美 教　　授・佐藤 寿晃 教　　授・菊池 昭夫 准 教 授・千葉　登 准 教 授・外川　佑 准 教 授・仁藤 充洋 名 誉 教 授・平山 和美	博士後期課程 １年	後期	２	３０	選択（選択必修）	否

授業概要	作業療法学分野の研究指導教員が、生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点で研究課題、研究計画に関する指導と支援をする。具体的には、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たる。
一般目標	1.出願時の研究テーマ（仮）について、生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点で検討する。 2.生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点での研究課題について、明確化する。 3.明確化した研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案する。
到達目標	1.出願時の研究テーマ（仮）に関する文献を、幅広くかつ深く収集できる。 2.収集した文献を、生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点を踏まえて批判的に検討できる。 3.上記の過程を通して、博士論文における研究課題を明確化できる。 4.博士論文における研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況を具体的に説明できる。 5.博士論文における研究課題の研究目的と意義を具体的に説明できる。 6.研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案できる。 7.自己の研究課題、研究計画を発表できる。
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。
授業形式	対面または遠隔講義

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1		オリエンテーション	出願時の研究テーマ（仮）の発表・討議		全員
2～8		研究ゼミナール	9 回目の発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動		各教員
9		研究課題、研究計画の明確化	研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画　発表と討議	発表準備	全員
10～14		研究ゼミナール	15 回目の発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動		各教員
15		まとめ	研究課題、研究計画　発表と討議	発表準備	全員

作業療法学特別研究Ⅰに関する各教員の指導テーマは下記の通りである。
○藤井浩美：生活行為を個体、作業、環境の三側面から動作分析、作業分析などを用いて分析し、作業療法の実効性を検証するための手法を指導する。
○菊池昭夫：神経内科学の立場から、神経疾患者の生活行為の障がいの機序や介入方法の実効性を検証するための手法を指導する。
○佐藤寿晃：高齢者や運動器障がい者の作業療法の実効性を検証するための手法を指導する。
○千葉登：神経障がい者や運動障がい者の評価、治療効果に関する手法を指導する。
○外川佑：作業療法の効果およびアウトカムに関連する要因の探索や分類、各種評価の予測精度を検証するための手法を指導する。

教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。
学生へのメッセージ	研究ゼミナールでは、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たります。
e-mail・研究室 （連絡先）	藤井：研究室 27　hfujii@yachts.ac.jp　　佐藤：研究室 37　tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38　akikuchi@yachts.ac.jp　　千葉：研究室 22　nchiba@yachts.ac.jp 外川：研究室 28　tsotokawa@yachts.ac.jp　　仁藤：研究室 26　mnito@yachts.ac.jp

授業科目名 （科目区分）	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
作業療法学特別研究Ⅱ （専門科目）	教　　授・藤井 浩美 教　　授・佐藤 寿晃 教　　授・菊池 昭夫 准 教 授・千葉　登 准 教 授・外川　佑 准 教 授・仁藤 充洋 名 誉 教 授・平山 和美	博士後期課程 ２年	通年	４	６０	選択（選択必修）	否

授業概要	作業療法学特別研究Ⅰでまとめた研究課題、研究計画を基に実施した予備研究や本研究のデータに関するまとめと解釈に、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームで当たる。
一般目標	1.研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討する。 2.研究課題、研究計画に関する倫理審査を受け、承認を得る。 3.研究計画に沿ったデータ収集と分析を行う。 4.データのまとめと解釈を行う。
到達目標	1.研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討できる。 2.検討した倫理的配慮を倫理委員会の審査書類に記述できる。 3.倫理委員会で研究の概要と倫理的配慮を的確に述べることができる。 4.研究計画に沿ってデータを収集できる。 5.収集したデータを分析し、必要に応じてデータの追加収集を行うことができる。 6.データのまとめと解釈を行うことができる。 7.特別研究Ⅰの研究計画及び特別研究Ⅱのデータのまとめと解釈について発表できる。
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。
授業形式	対面または遠隔講義

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ～ 30		予備研究と本研究 研究テーマの設定 研究背景と目的 妥当な研究方法の選択 適切なデータ解析方法 倫理審査の受審 研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的に対応した考察	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、資料の収集方法や研究実施方法、解析方法、結果の解釈などを定期的に指導する。 その指導の下、毎月の作業療法学分野会において、経過を発表し、データの解釈と統合を図る。	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	全員

作業療法学特別研究Ⅱに関する各教員の役割は、下記の通りである。
作業療法学特別研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、データ収集、解析、解釈などを指導する。

教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。
学生へのメッセージ	目的意識を持って臨んでください。
e-mail・研究室 （連絡先）	藤井：研究室 27　hfujii@yachts.ac.jp　佐藤：研究室 37　tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38　akikuchi@yachts.ac.jp　千葉：研究室 22　nchiba@yachts.ac.jp 外川：研究室 28　tsotokawa@yachts.ac.jp　仁藤：研究室 26　mnito@yachts.ac.jp

授業科目名 （科目区分）	担当教員 職・氏名	対象者	開講時期	単位数	時間数	必修・選択の別	科目等履修生
作業療法学特別研究Ⅲ （専門科目）	教　　授・藤井 浩美 教　　授・佐藤 寿晃 教　　授・菊池 昭夫 准 教 授・千葉　登 准 教 授・外川　佑 准 教 授・仁藤 充洋 名 誉 教 授・平山 和美	博士後期課程 ２～３年	通年	４	６０	選択（選択必修）	否

授業概要	作業療法学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して博士論文として作成するための指導に当たる。
一般目標	1. 作業療法学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成する上での、自己の課題と解決方法を認識する。 2. 博士論文の内容の一部を学術論文としてまとめる。 3. 博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成する。 4. 論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 5. 論文発表会において研究成果を発表できる。
到達目標	1. 作業療法学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成する上での、自己の課題と解決方法について意見交換できる。 2. 博士論文の内容の一部を学術論文として作成し、学術雑誌の採択を受けられる。 3. 博士論文の構成を検討できる。 4. 博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成できる。 5. 論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 6. 論文発表会において研究成果を発表できる。
成績評価方針 評価方法 および基準	授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する
授業形式	対面または遠隔授業

授業計画

回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当
1 ～ 30		研究の実施 　対象者の選択と協力要請 　実験や調査の実施 　研究結果の解析 　目的に対応した考察 研究のまとめ 　博士論文の作成 　博士論文発表の準備 論文発表会	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、論文構成、問題設定、研究方法、結果、考察、結論、文献および口頭試問に備えた対応、学術誌への投稿などを定期的に指導する。 その指導の下、毎月の作業療法学分野会において、経過を発表し、論文作成を促進する。	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	全員

作業療法学特別研究Ⅲに関する各教員の役割は、下記の通りである。
作業療法学特別研究Ⅱで収集したデータの解析や解釈に基づき、博士論文作成を指導する。

教科書 参考図書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
履修上の注意	講義日程は、受講者の状況（一般・社会人）によって変更可能ですので、事前にご相談ください。
学生へのメッセージ	目的意識を持って臨んでください。
e-mail・研究室 （連絡先）	藤井：研究室 27　hfujii@yachts.ac.jp　佐藤：研究室 37　tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室 38　akikuchi@yachts.ac.jp　千葉：研究室 22　nchiba@yachts.ac.jp 外川：研究室 28　tsotokawa@yachts.ac.jp　仁藤：研究室 26　mnito@yachts.ac.jp